

行雲流水

No.320 令和5年6月21日発行

「成功」の反対は、「失敗」ではない

「成功」の反対は、「何もしない」ことである

校長 寒河江 正人

生徒諸君、

「ミス」や「失敗」「挫折」は、誰にでもある。

私たち人間はみな、本来、「**不完全な生き物**」なのだから、そりゃあたり前のことだ。

しかし、それを自覚しない者、自覚しようとしないうる者、原因や課題を究明して改善しようと努力する姿勢に欠けている者は、絶対に成長しない。

「ミス」や「失敗」「挫折」は、むしろ「**成長するチャンス**」なのである。

「ここから這い上がって、挽回してやるぞ!!」という反骨心が湧き上がり、普段よりも頭を使うようになるチャンスなのに、それを活かさないという「手」はないではないか。

ミスや失敗を分析・考察すれば、些細なことにも気付くので、それを工夫・改善するために「変化・変容」し、その「変化・変容」こそが大きな「成長・進歩」につながるのだ。

その工夫・改善に努力しようとする「姿勢」によって、「調整・修正する能力」が高まり、同じミスや失敗を繰り返さないように飛躍的な「成長・進歩」を遂げるのだ。

工夫・改善するために、「あれこれ」と分析・考察する「感じようとする力」を身につける。私は、その「姿勢」こそが最も大切だと考えている。

「ミスや失敗・挫折をしたときこそ、**今が伸びるチャンスだ。**」

そんな「意識」と「姿勢」を、もてるかどうか。それが、「運命のカギ」になるのだ。

それが、ミスや失敗という「経験」を「^{かて}糧」にできる者とできない者との「分かれ道」になるのだろう。